

蒜地区)を視察した。

●次回は福島市内で技術大会を開催

懇親会では主催者を代表して、日本コンクリート技術の篠田社長が「建設現場には多くの人々が携わっている。現場で一度作業を止めると再び動かすのは大変で、常に即断・即行動が求められる。当然、信頼関係が無ければ前に進めることが出来ない。そこで必要な

第8回定時総会を開催

新世代PCa SDPフォーム推進

●オリジナル技術・製品の開発を工業会の推進力に

新世代PCa工業会(会長||篠田佳男氏)は9日、コンクリート技術大会が行われているフォレスト仙台で第8回定時総会を開催した。総会では、平成23年度事業報告・収支決算報告、平成24年度事業計画案・収支予算案を審議し、いずれも原案通り可決承認した。

開会に先立ち篠田会長は「プレキャスト製品には施工の合理化や工期の短縮、省人化、品質の向上、コスト縮減など、場所打ちコンクリートにはない数々のメリットがある。当工業会ではプレキャスト製品の普及・促進を図るため全国のコンクリート製品メーカーと共に、オリジナル技術・製品の開発

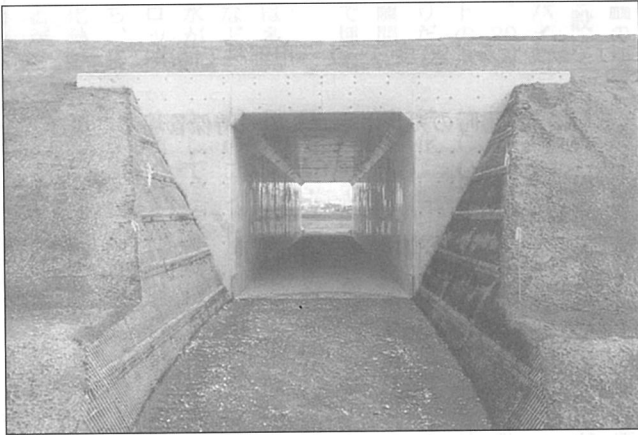
のは絆だ。昨年、会津で初めての大会を開催した時も私は多くの絆に助けられた。個々の力には限界があるが、団結すれば大きな力が発揮できる。来年は『福島の再生無くして日本の再生無し』と言われる福島で技術大会を開催して、コンクリート技術による貢献を誓いたい」と述べ、次回は福島でコンクリート技術大会を開催する考えを明らかにした。

に取組んできた。ステンレス鉄筋を使用した埋設型枠・SDPフォームは主要な実験が終了し、今年8月には東北整備局発注の施工物件に初採用された。早ければ今年明けにもNETISに登録される見込みだ。SDPフォームは震災の復旧・復興にも役立つ、これまでにない理想的な高耐久性埋設型枠だと考えている。是非、会員の皆さんと共に全国に広めたい」と述べた。

また、昨年から工業会の総会をコンクリート技術大会と同時開催にしていることについて「大会

はコンクリートに携わる我々にとって、非常に参考になる企画だと考えている。午前中に行われた論文発表では、放射線の除線・遮蔽をテーマにした論文発表を聞いたが、放射線に対する注目度の高さを再認識した。来年福島で大会を開催する予定だが、さらに放射能問題が大きく取り上げられるのではないかと。当工業会としても放射能問題を視野に入れながら、なお一層技術力を高め工業会の価値を高めたい」と挨拶した。

総会では事業計画として、企画WG・作業WG会議の開催、SDPフォームの普及拡大、開発製品・びったん溝の普及推進などが決まった。



初採用となった東北地整のカルバート工事

●ステンレス鉄筋を積極活用

SDPフォームはコンクリート打設時の脱型作業を不要にして、省力化と急速施工を可能にした埋設型枠工法。

従来のプレキャスト製埋設型枠は水セメント比を小さくして高耐久化を図り、ビニロン繊維などの短繊維を補強材に用いているが、鉄筋コンクリート製部材と比較して構造性能を大きく高める効果は期待できない。また鉄筋を補強材として使用すると鉄筋破りを厚くせざるを得ず、埋設型枠の利点である薄肉・軽量化が難しい。

これに対してSDPフォームは、賛助会員社・愛知製鋼、大同興業の協力を得て開発した細径ステン

レス鉄筋(D4・D5)を使用。耐腐食性に優れたステンレス鉄筋を補強材に使用して構造性能を高め、薄肉・軽量化も可能にした。既存の埋設型枠と異なり、鉄筋コンクリート方式による設計が可能。ステンレス鉄筋は耐久性向上の観点から採用される事例が増えており、今年度改訂された道路橋示方書でステンレス鉄筋の記述が新たに加えられた。

同工業会では、年内にカタログやマニュアルなどの営業用ツールを揃え、埋設型枠を中心にSDPフォームの普及拡大を図る考えだ。この他、ステンレス鉄筋を活用した桁や高靱性パネルの実用化に向けた実験も進めている。

理想的な高耐久性埋設型枠「SDPフォーム」の実用化推進とPCa製品の新たな可能性を追求

新世代PCa工業会

会長 篠田 佳男

事務局 東京都墨田区両国4-38-1
日本コンクリート技術(株)内
TEL 03-5669-6653
FAX 03-3632-2970
URL www.new-pca.gr.jp